

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
中種子町	野間上地区 (中山・大平・池之向・伏之前・松原・上方・横町・旭町)	令和3年3月23日	

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	433.4ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	263.3ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	137.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	43.8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	68.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.9ha
(備考)	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

本地区は本町の中心部で人口も多く、他地区と比較して高齢化率も低い。農家に関しては高齢化が進んでいるものの、認定農業者や認定新規就農者、法人も多い。しかし他地区と同様に後継者は不足している。一部基盤整備が出来ているが、集落内の小さな農地や飛び地、農道整備が進んでいない農地等も多く遊休農地化している。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体数が多く、一部は規模拡大意向であるため、条件に合う農地を集積する。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。  
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地中間管理事業を活用した農地の貸し借りを推進する。  
認定新規就農者が多いため、定着できるよう地域で支援を行う。